

## 貸借対照表

(令和 7年 3月31日現在)

(単位：千円)

科目	金額	科目	金額
<b>【資産の部】</b>		<b>【負債の部】</b>	
固定資産	9,474,467	固定負債	2,661,020
有形固定資産	7,570,513	地方債	2,586,311
事業用資産	3,780,261	長期未払金	-
土地	419,385	退職手当引当金	74,709
立木竹	-	損失補償等引当金	-
建物	6,649,451	その他	-
建物減価償却累計額	△ 3,721,303	流動負債	△ 239,560
工作物	3,039,059	1年内償還予定地方債	303,092
工作物減価償却累計額	△ 2,822,225	未払金	-
船舶	-	未払費用	-
船舶減価償却累計額	-	前受金	-
浮標等	-	前受収益	-
浮標等減価償却累計額	-	賞与等引当金	26,464
航空機	-	預り金	△ 578,940
航空機減価償却累計額	-	その他	9,824
その他	-	負債合計	2,421,460
その他減価償却累計額	-	<b>【純資産の部】</b>	
建設仮勘定	215,894	固定資産等形成分	10,205,708
インフラ資産	3,597,083	余剰分(不足分)	△ 2,824,255
土地	24,967		
建物	36,468		
建物減価償却累計額	△ 12,732		
工作物	17,909,603		
工作物減価償却累計額	△ 14,569,686		
その他	-		
その他減価償却累計額	-		
建設仮勘定	208,463		
物品	891,851		
物品減価償却累計額	△ 698,682		
無形固定資産	9,558		
ソフトウェア	9,558		
その他	0		
投資その他の資産	1,894,396		
投資及び出資金	23,323		
有価証券	5,000		
出資金	18,323		
その他	-		
投資損失引当金	-		
長期延滞債権	3,929		
長期貸付金	-		
基金	1,867,145		
減債基金	132,943		
その他	1,734,201		
その他	-		
徴収不能引当金	-		
流動資産	328,445		
現金預金	137,318		
未収金	△ 579,458		
短期貸付金	-		
基金	731,241		
財政調整基金	696,241		
減債基金	35,000		
棚卸資産	-		
その他	63,646		
徴収不能引当金	△ 24,301		
資産合計	9,802,913	純資産合計	7,381,453
		負債及び純資産合計	9,802,913

## 行政コスト計算書

自 令和 6年 4月 1日

至 令和 7年 3月31日

(単位：千円)

科目	金額
経常費用	2,137,693
業務費用	1,625,191
人件費	366,974
職員給与費	298,661
賞与等引当金繰入額	26,464
退職手当引当金繰入額	-
その他	41,850
物件費等	1,231,230
物件費	612,073
維持補修費	65,165
減価償却費	553,992
その他	-
その他の業務費用	26,986
支払利息	14,296
徴収不能引当金繰入額	-
その他	12,691
移転費用	512,502
補助金等	215,517
社会保障給付	59,804
他会計への繰出金	236,750
その他	431
経常収益	63,937
使用料及び手数料	36,154
その他	27,783
純経常行政コスト	2,073,755
臨時損失	-
災害復旧事業費	-
資産除売却損	-
投資損失引当金繰入額	-
損失補償等引当金繰入額	-
その他	-
臨時利益	-
資産売却益	-
その他	-
純行政コスト	2,073,755

## 純資産変動計算書

自 令和 6年 4月 1日

至 令和 7年 3月31日

(単位：千円)

科目	合計	固定資産 等形成分	
		固定資産 等形成分	余剰分 (不足分)
前年度末純資産残高	7,371,195	10,419,905	△ 3,048,710
純行政コスト (△)	△ 2,073,755		△ 2,073,755
財源	2,084,009		2,084,009
税収等	1,868,544		1,868,544
国県等補助金	215,465		215,465
本年度差額	10,253		10,253
固定資産等の変動 (内部変動)		△ 214,197	214,197
有形固定資産等の増加		295,301	△ 295,301
有形固定資産等の減少		△ 553,992	553,992
貸付金・基金等の増加		234,442	△ 234,442
貸付金・基金等の減少		△ 189,948	189,948
資産評価差額	-	-	
無償所管換等	-	-	
その他	4	0	4
本年度純資産変動額	10,257	△ 214,197	224,455
本年度末純資産残高	7,381,453	10,205,708	△ 2,824,255

## 資金収支計算書

自 令和 6年 4月 1日

至 令和 7年 3月31日

(単位：千円)

科目	金額
<b>【業務活動収支】</b>	
業務支出	1,580,213
業務費用支出	1,066,981
人件費支出	365,535
物件費等支出	674,459
支払利息支出	14,296
その他の支出	12,691
移転費用支出	513,232
補助金等支出	216,247
社会保障給付支出	59,804
他会計への繰出支出	236,750
その他の支出	431
業務収入	2,084,254
税込等収入	1,868,085
国県等補助金収入	171,572
使用料及び手数料収入	36,154
その他の収入	8,443
臨時支出	-
災害復旧事業費支出	-
その他の支出	-
臨時収入	-
業務活動収支	504,040
<b>【投資活動収支】</b>	
投資活動支出	531,525
公共施設等整備費支出	298,183
基金積立金支出	233,342
投資及び出資金支出	-
貸付金支出	-
その他の支出	-
投資活動収入	233,464
国県等補助金収入	43,893
基金取崩収入	189,571
貸付金元金回収収入	-
資産売却収入	-
その他の収入	-
投資活動収支	△ 298,061
<b>【財務活動収支】</b>	
財務活動支出	357,611
地方債償還支出	357,611
その他の支出	-
財務活動収入	212,792
地方債発行収入	212,792
その他の収入	-
財務活動収支	△ 144,819
本年度資金収支額	61,160
前年度末資金残高	71,219
本年度末資金残高	132,379
前年度末歳計外現金残高	-
本年度歳計外現金増減額	4,940
本年度末歳計外現金残高	4,940
本年度末現金預金残高	137,318

## 注記

### 1 重要な会計方針

#### (1) 有形固定資産等の評価基準及び評価方法

- ① 有形固定資産……………取得原価  
ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。  
ア 昭和59年度以前に取得したもの……………再調達原価  
ただし、道路、河川及び水路の敷地は備忘価額1円としています。  
イ 昭和60年度以後に取得したもの  
取得原価が判明しているもの……………取得原価  
取得原価が不明なもの……………再調達原価  
ただし、取得原価が不明な道路、河川及び水路の敷地は備忘価額1円としています。
- ② 無形固定資産……………取得原価  
ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。  
取得原価が判明しているもの……………取得原価  
取得原価が不明なもの……………再調達原価

#### (2) 有価証券等の評価基準及び評価方法

- ① 満期保有目的有価証券……………償却原価法（定額法）
- ② 満期保有目的以外の有価証券  
ア 市場価格のあるもの……………会計年度末における市場価格  
（売却原価は移動平均法により算定）  
イ 市場価格のないもの……………取得原価（又は償却原価法（定額法））
- ③ 出資金  
ア 市場価格のあるもの……………会計年度末における市場価格  
（売却原価は移動平均法により算定）  
イ 市場価格のないもの……………出資金額

#### (3) 有形固定資産等の減価償却の方法

- ① 有形固定資産（リース資産を除きます。）……………定額法  
なお、主な耐用年数は以下のとおりです。  
建物 10年～50年  
工作物 3年～60年  
物品 2年～18年
- ② 無形固定資産（リース資産を除きます。）……………定額法  
（ソフトウェアについては、当村における見込利用期間（5年）に基づく定額法によっています。）
- ③ リース資産  
ア 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
……………自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法  
イ 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
……………リース期間を耐用年数とし、残存価値をゼロとする定額法

#### (4) 引当金の計上基準及び算定方法

- ① 徴収不能引当金  
未収金については、過去5年間の平均不納欠損率により（又は個別に改修可能性を検討し）、徴収不能 見込額を計上しています。  
長期延滞債権については、過去5年間の平均不納欠損率により（又は個別に改修可能性を検討し）、徴収不能見込額を計上しています。  
長期貸付金については、過去5年間の平均不納欠損率により（又は個別に改修可能性を検討し）、徴収不能見込額を計上しています。
- ③ 退職手当引当金  
退職手当債務から、組合への加入時以降の負担金の累計額から既に職員に対し退職手当として支給された額の総額を控除した額に、組合における積立額の運用益のうち道志村へ按分される額を加算した額を控除した額を計上しています。
- ④ 損失補償等引当金  
履行すべき額が確定していない損失補償債務等のうち、地方公共団体の財政の健全化に関する法律に規定する将来負担比率の算定に含めた将来負担額を計上しています。
- ⑤ 賞与等引当金  
翌年度6月支給予定の期末手当及び勤勉手当並びにそれらに係る法定福利費相当額の見込額について、それぞれ本会計年度の期間に対応する部分を計上しています。

#### (5) リース取引の処理方法

- ① ファイナンス・リース取引  
通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。
- ② オペレーティング・リース取引  
通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

#### (6) 資金収支計算書における資金の範囲

現金（手許現金及び要求払預金）及び現金同等物において、歳計現金等の保管方法として規定した預金等をいいます。  
なお、現金及び現金同等物には、出納整理期間における取引により発生する資金の受払いを含んでいます。

#### (7) その他財務書類作成のための基本となる重要な事項

- ① 物品及びソフトウェアの計上基準  
物品については、取得価額又は見積価格が50万円（美術品は300万円）以上の場合に資産として計上しています。  
ソフトウェアについても物品の取扱いに準じています。